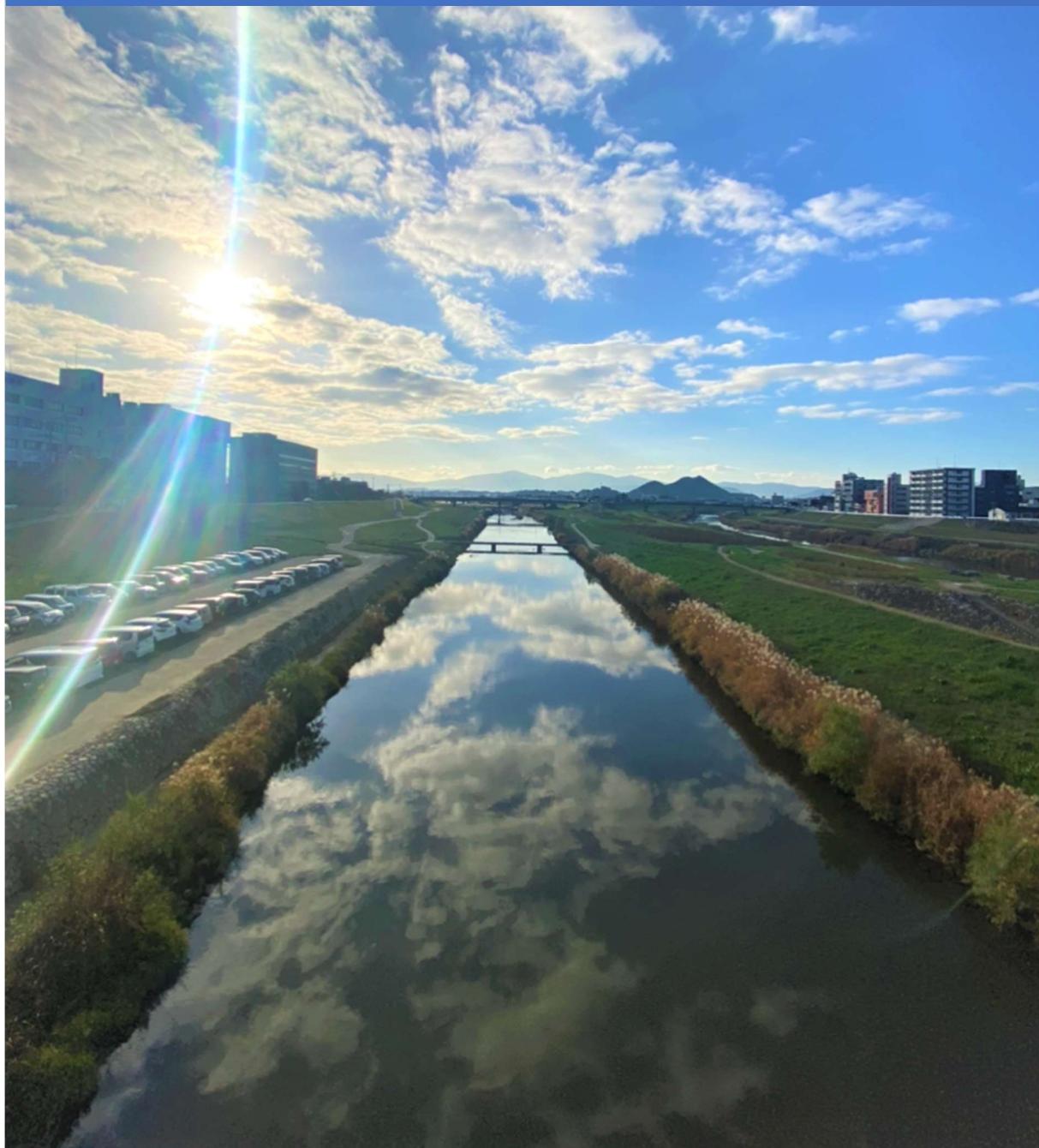


～住学協同への実験～

第 33 期 「筑豊ゼミ」報告書

2020.04 ~ 2021.03

NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター



筑豊ゼミでは、**地域住民**と近畿大学産業理工学部をはじめとする**地域の大学が協同**して地域づくりに関する活動を行うことで、生涯学習の場の提供や地域活動グループのネットワーク化促進・新しい将来像の形成・地域経済の健全な発展のための**仕掛けづくり**を行っています。

はじめに

第 33 期（2020.04.01～2021.03.31）は、2020 年の初頭から広がりはじめた新型コロナウイルスによる影響を大きく受けた 1 年となってしまいました。

福岡県は、期間中に 2 回の緊急事態宣言（1 回目：2020.04.07～2020.05.21、2 回目：2021.1.14～2020.02.28）が発令され、人々の行動や経済活動、オリンピックの延期など大きな影響がありました。

この緊急事態宣言により、新型コロナウイルス感染拡大防止の指針に沿った行動をすることが求められ、基本的に対面での会議や活動が制限されてしまい、筑豊ゼミの各研究会の活動や運営会議は、ほとんど行えない状況となってしまったことを報告します。

2 回目の緊急事態宣言は解除されましたが、県の「福岡コロナ警報」はまだ発動中であり、予断を許さない状況であることには変わりありません。

これを機に筑豊ゼミの活動の在り方についても、考えていかなければならないときがきているように感じています。

報告書 目次

1. 第 33 期 筑豊ゼミ運営委員会の活動状況	P02
2. 第 33 期 筑豊ゼミ開講式	P02
3. 第 33 期 研究会活動報告	
01.市民遺産研究会	P04
02.古代のロマンに酔う研究会 ~遠賀川上流古代祭~ヒミコを捜そう~	P08
03.住み続けたいまち・住んでみたいまち ~勝手に提案研究会	P13
04.つかこうへいと筑豊研究会	P17
05.情報発信/データデザイン研究会（pdd 研）	P19
4. 地域づくりセミナー報告	P20

1. 第33期 筑豊ゼミ運営委員会の活動状況

新型コロナウイルスの影響下により、今年度は以下のとおりの開催となりました。

- ・運営委員会：2020.6～9月、11月、2021.3月に開催
 - ⇒ その他の月は、緊急事態宣言や天候不良(大雪)等により中止
- ・第33期 筑豊ゼミ 開講式
 - ⇒ 緊急事態宣言発令中(4/7～5/21)により6/18に延期して開催
- ・第33期 筑豊ゼミ 修了式
 - ⇒ 2021.03.18に開催予定

2. 第33期 筑豊ゼミ 開講式

2020.06.18(木) 19:00より飯塚市民交流プラザ(つなぐカフェ@飯塚)にて、第33期筑豊ゼミ開講式を行いました。

新型コロナウイルスの影響により、第32期修了式が行えていない状況であったため、第33期筑豊ゼミ開講式にて、第32期活動報告を各委員会の紹介と兼ねて行うこととしました。

まことに残念ながら、「飯塚(中心市街地)このままで委員会」と「学生ビジネス研究会」は、第32期までの活動となることが報告されました。

よって今期は、5つの研究会で活動を行っていくこととなりました。



市民遺産研究会 白神会長

祝辞：

NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター
小野理事長





古代ロマンに酔う研究会 藤江会長

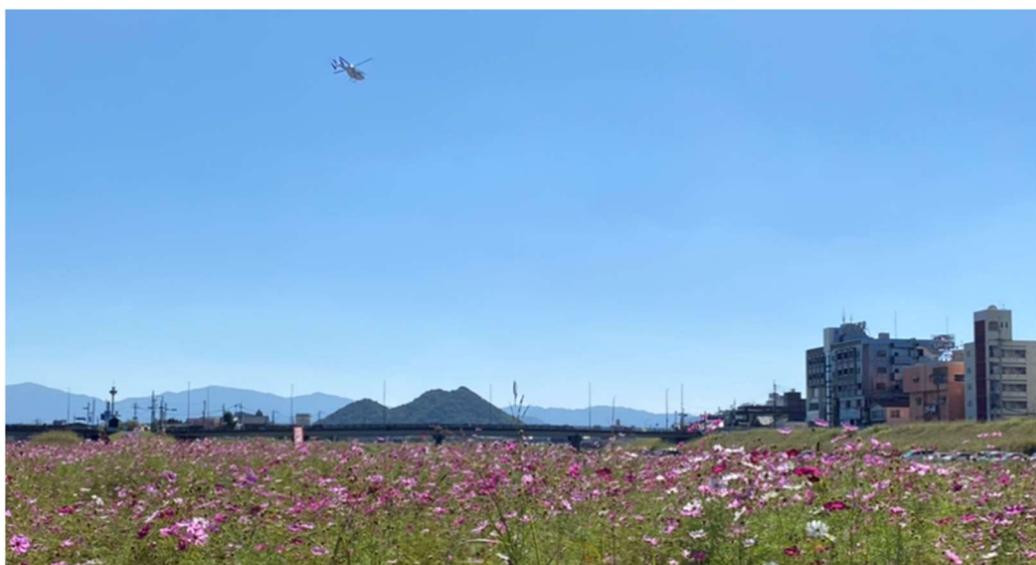


飯塚(中心市街地)このままで委員会 縄田委員長



つかこうへいと筑豊研究会 池田会長

今期も、状況が許すなかでの活動となりますが、「筑豊ゼミ」の歴史を踏まえ「住学協同機構」の精神を持って、第33期も各研究会とも活動を推進していきます。よろしくお願いいたします！



NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター：www.chikuhou-jugaku-wp.org

01. 市民遺産研究会

会長：白神 精一

第1回例会 2020年10月15日(木) 19:00～ 市民交流プラザ
：白神、佐野、千代田、山下、菊川

第2回例会 2020年11月19日(木) 19:00～ 市民交流プラザ
：佐野、千代田、山下、菊川

第33期はコロナ禍で、つなぐカフェが閉鎖されたため9月まで開催できなかった。10月に入り第1回例会では、市民遺産の一つとしての近代化遺産の現況調査について話し合った。既に白神会長が精力的に調査されているが、市民遺産の一つとして筑豊各地に残されている神社拝殿の天井画をテーマに、今期初の現況調査を10月25日に企画したが天候不良のため中止した。

第2回例会は、白神会長の緊急入院(現在は退院、お元気です)を受け、10月に中止した現況調査を11月29日に行うこととした。

第3回例会 2021年2月18日(木) 19:00～ 市民交流プラザ：佐野、千代田、山下、菊川

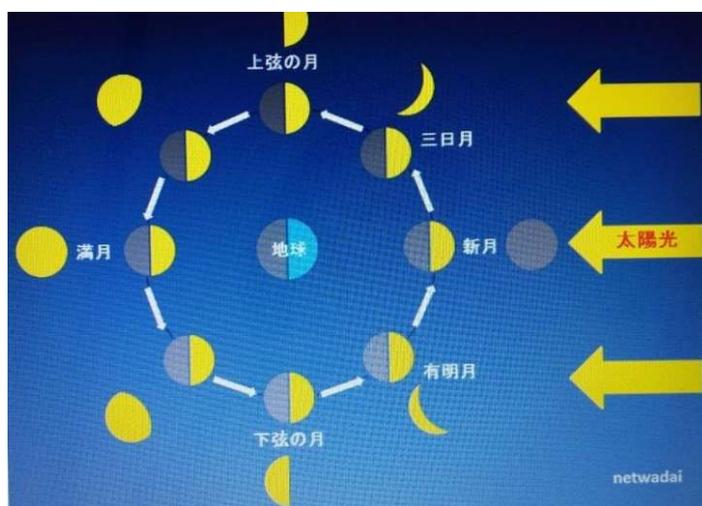
“菜の花や月は東に日は西に”(与謝蕪村) 昼の主役“日”が落ちれば“月”の出番：話題提供は、千代田さん。資料は、1年365日全ての「月齢」が図示されている「2021 MOON CALENDAR」!!

『月』と言えども、中秋の名月を思い浮かべるが、ふと、月の満月から次の満月まで何日あるの？月齢とは？などと疑問に思い、今回少し調べてみた

『月齢とは』：月の満ち欠けの状態を知るための目安になる数字で、新月は見えぬこの日を0として、翌日が1、2、3と増えていき、29.5前後まででひとめぐりする。

月齢の数字が7前後で上弦の月で半月、15前後で満月、22前後で下弦の月で半月、30に近ければ又、新月となる。

昔は、月齢と人々の生活が密接に関係し、月を見ればその日何日かがわかった。『月の錯視』：月は低い所にあるときより、高い所にあるときのほうが、小さく感じる。これは目の錯覚によるもので、月の錯視という。ちなみに、2月16日は、4日月で、大安でした。
(千代田 記)



第4回例会 2021年3月16日(火) 14:00~ 市民交流プラザ: 佐野、千代田、山下、菊川

筑豊ゼミ市民遺産研究会の最後の例会、第33期は、筑豊ゼミの事務局長として、また筑豊市民遺産研究会を支えてこられた、主税洋三さんの逝去、コロナ禍の中、お別れもできなかったことは痛恨の極みでした。コロナが落ち着いたら、研究会として「お別れの会」を行いたいと考えています。

また、研究会の大黒柱、長弘先生が施設に入られ、研究会から離れられことも、研究会活動の大きな痛手でした。

来期は、コロナ禍を克服し、市民遺産の調査研究と称して、好き勝手な活動！が目標です。

◎筑豊市民遺産の現況調査 2020年11月29日(日)糸田町、嘉麻市: 佐野、千代田、山下、菊川

今回は「天井画」をテーマに、以下の道筋で晩秋の筑豊路を巡った。

・金村神社 ・北斗宮 ・麟翁寺 ・鮭神社 ・カホアルペ

① 金村神社:

田川郡糸田町真岡団地の一角にあるこの神社は、1300年程前、大和政権で軍事の最高権力者・大伴金村を偲んで建立されたとされ、拝殿の天井画には虎・猫・鳥などの代表的な動物の絵や、花菖蒲や水仙等の草木画取り混ぜて描かれている。



また、毎年3月15日は豊作祈願の「お田植祭」が行われる。なお、「金村神社天井絵」として、糸田町指定文化財第1号に指定されている。

② 北斗宮：

嘉麻市大隈。

一夜城として知られる益富城があった山麓のこの神社は、115 段の石段の先にあった。

674 年天智天皇の御代に北斗七星を信仰していた若木連(わかきのむらじ)が延命長寿の神を祀ったが起源とされる。

天井画には勇壮な武者らしきものが描かれていたが、残念ながら不鮮明だった。

慶長 5 年（1600 年）に黒田長政が筑前福岡藩主となってからは筑前十五神の一宮として歴代の藩主から手厚く保護された。

(境内に「筑前乃國 一乃宮 北斗宮」の石碑あり)



③ 麟翁寺(曹洞宗麟翁禅寺)：

益富城主だった後藤又兵衛の母を弔うために開山創建されたこの寺には、「黒田二十四騎」の一人で、黒田節に所縁のある母里太兵衛の墓が、子供・孫とともに三つ並んでいた。

母里太兵衛は、慶長 11 年（1606）後藤又兵衛出奔の後、益富城主となりました。

その後当地を治め、慶長 20 年 6 月に死去しました。遺体は、後藤又兵衛の母永忠のいた永忠寺（当時は廃寺）に埋葬し、麟翁という法名の一部をとって麟翁寺と称されました。



④ 鮭神社：

国道 211 号沿いから青銅の大鳥居をくぐった鮭神社は、鮭を神様の使いとして祀っている全国でも珍しい神社です。

毎年 12 月 13 日には氏子や水産関係者による、五穀豊穰と無病息災を祈願して遠賀川を遡上してきた鮭を奉納する「献鮭祭(けんけいさい)」が行われます。祭りの起源については境内の碑文に、明和元年(1764)に鮭が奉納された経緯が記されています。

注：今年は、3 年ぶりに遠賀川水系で確認されたサケが奉納された。

鮭神社には「サケが遠賀川上流までさかのぼった年は豊作」との言い伝えが残る。

(西日本新聞筑豊版 <https://www.nishinippon.co.jp/item/n/673420/>)



⑤ カホアルペ(嘉麻市馬見) <https://www.city.kama.lg.jp/site/kahoarupe/>：

足白農泊施設として令和 2 年 7 年オープン。嘉麻市(旧嘉穂町)には、2016 年度の日本山岳遺産に認定された「嘉穂アルプス」(馬見山・屏山・古処山)の山懐に抱かれた旧足白小学校跡に、交流人口の拡大、にぎわいの創出及び地域資源の活性化を図るため、嘉麻市の魅力を体感できる場として、農業体験やボルタリング、会議から宿泊もできる施設として作られました。

敷地内の石碑には、旧足白小学校の校歌が刻まれていた。

空腹を覚えたころには昼食時間はとっくに過ぎていた。

帰路の途中、話題となっている「うどん屋」に直行、全員が初めての名物「よもぎうどん」に舌鼓。

このご時世、マスクがお供の秋満喫の一日だった。(山下 記 写真 千代田)

02.古代のロマンに酔う研究会

会長：藤江 文雄

遠賀川流域が古代文化で栄えた地域であることを全国的に広める。

また、学究的な研鑽を積みながら、色々な催し物を企画し、歴史の嵐を吹かせなければと想っています。

※遠賀川上流古代祭り実行委員会(団体会員)が運営している研究会

遠賀川上流古代祭～「ヒミコを捜そう～」 趣意書

趣 旨

響灘から嘉穂盆地に至る遠賀川流域は、先史・縄文・弥生から古墳時代にかけての遺跡・遺物が数多く、それらが調査、発掘、研究され貴重な遺産として確認されています。

また、当時の地形を観ると直鞍地域まで入り込んでいた、響灘から内部に伸びる遠賀川の水運。続いて冷水峠を越えて朝倉地方に通じる南北の交通路。他方、須玖・筑紫方面からしょうけ越えを経て筑穂地域、庄内から烏尾峠を越えて田川、次いで仲哀峠を越えて宇佐地方へと通じる東西の陸運。この二つの交通路が交叉する嘉飯桂地域は当時の重要な交通の要衝であったと推測されます。

当遠賀川流域地域では立岩遺跡から発掘された前漢鏡をはじめ多くの埋蔵物、寺山古墳、川島装飾古墳、小正古墳、王塚古墳や沖出古墳等々の古墳群。立岩遺跡の石包丁、井手が浦窯跡など多くの遺跡、埋蔵物が発掘されています。また、この地域に棲む人々の炭水化物供給地となる嘉麻・穂波の稲作地域。タンパク源を供給する遠賀川の魚介類、盆地を囲む山野の動物資源。生産活動では青銅器・鉄器の加工製造、石庖丁や各種土器の製造、それらをもとにした交易。これらを総合的にみると古代の遠賀川流域には多くの集落が存在し、活発な生産・交易活動、文化活動が展開されていたことが推測されます。

また、遠賀川下流域は日本の稲作の発祥地と言われています。その上流に位置する嘉麻、穂波の豊かな稲作地域は、後に大和朝廷によって屯倉が置かれるほどの豊穡の地でありました。

特に嘉麻、穂波川が合流する周辺地域は、古代の豊かな文明を興した地域であり、日本の黎明期を支えた一つの地域だと考えられます。加えて、「魏志倭人伝」に記載されている不彌国は当地域ではないかと推測されます。

以上のような状況から 邪馬台国や卑弥呼が実際に存在していたとするならば、遠賀川流域は邪馬台国や卑弥呼に大いに関係があったのではないかと推測されます。

このことから、

- ①当地域の古代歴史文化遺産の価値を再認識し、嘉飯桂地域が持つ潜在的可能性を顕在化し、当地域を中心とした母なる遠賀川流域の蘇生・創生・活性化を図り、多くの来訪者を迎える。
- ②当地域で生まれ育ち、居住した子ども達や住民が、地域に対する誇りを持ち、帰属意識、郷土愛、帰郷意欲を喚起する。
- ③当地域の学校に留学している学生や社会人との交流の場を作る。

そこで、飯塚市、嘉麻市、桂川町を中心にして、市町村合併10周年を契機に実行委員会を組織し、別添、事業計画に基づき、標記「遠賀川上流古代まつり～ヒミコを捜そう～」開催に向けて取り組みを進めています。

遠賀川上流古代祭～「ヒミコを捜そう～」

実行委員会代表 藤江 文雄

卑弥呼（ヒミコ）と不彌国について

生きていた時代（BC239年 魏へ遣使を送った年数から推測）

中国の魏の国の歴史書：西暦220年から280年の間「魏・呉・蜀」三国の興亡を記録している文献が「三国志」です。

この三国志は「魏書：巻3冊」、「呉書1冊」「蜀書1冊」からできています。その中の「魏書」の第3冊の末尾に「魏書巻三〇烏丸鮮卑東夷傳第三十倭人の条」という二千文字足らずの記録があります。

この条文をわが国では「魏志倭人伝」とよんでいます。この条文の中に「邪馬台国」や「卑弥呼」のことが書かれています。この時代には未だ「日本」という国は成立していませんでした。そのため、中国では現在の日本のことを「倭国」と呼び、そこに住んでいる人々を「倭人」と呼んでいました。

そこで「邪馬台国」はどこにあったのか、「卑弥呼」はどこに住んでいたのかなど、古代の謎は江戸時代から多くの研究者が考えを出し合ってきていますが、残念ながらいまだに納得させる決定的な結論は出てきていません。

魏志倭人伝に書かれている邪馬台国や卑弥呼について紹介します。

1. 邪馬台国はどこに・・・魏志倭人伝によると

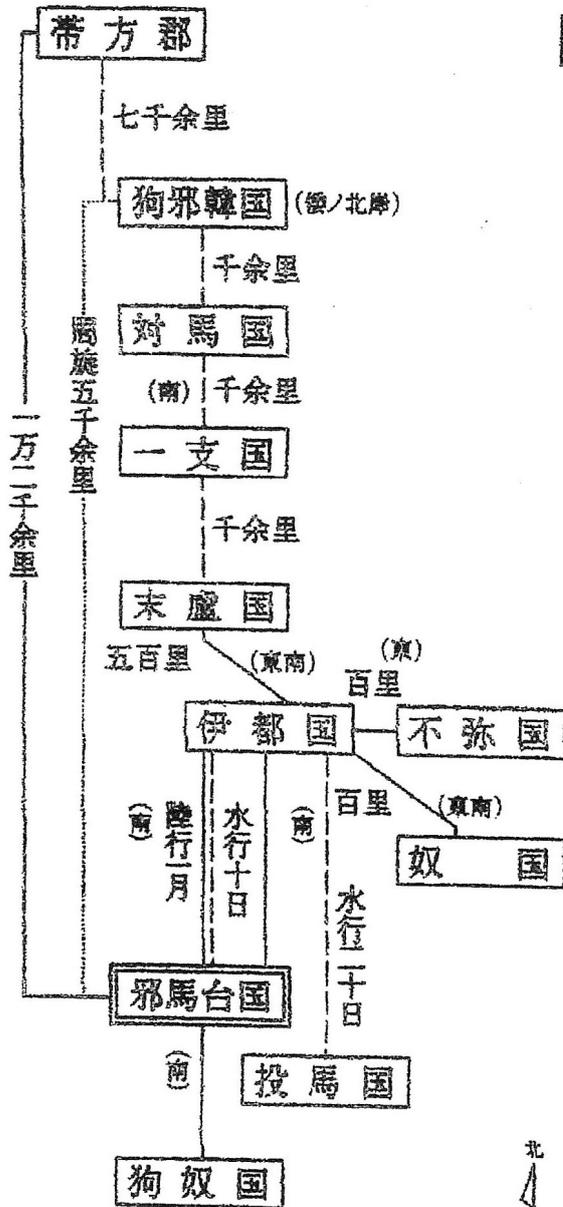
- 帯方郡から狗邪韓国まで半島の西海岸に沿って七千里あまり。
- 狗邪韓国から海を渡って対馬国まで千里あまり。
- 対馬国から壹岐国まで海を渡って千里あまり。
- 壹岐国から末廬国まで海を渡って千里あまり。
- 末廬国から伊都国（糸島付近）まで東南に陸路で五百里。
- 伊都国から奴国（博多付近ではないかと）まで東南に陸路で百里。
- 奴国から不彌国（フミ国）まで東へ陸路で百里。ここから先は方角、距離等不明瞭。
- 不彌国から投馬国へは南方向に海路で二十日。
- 不彌国から邪馬台国へは南方向へ海路で十日、陸路で一ヶ月ほど。
- 帯方郡から邪馬台国の距離は一万二千里あまり。

※魏志倭人伝に記載されている不彌国はここ嘉穂盆地一帯ではないかと考えられます。

※関西地方で発掘されている大きな古墳は5世紀以降古墳時代のものであって、当地域が倭国の一大工業地域であったころより200年以上以降のことです。（まだ日本国は成立していない）

◎卑弥呼はここ遠賀川流域に去来し、支配していたことは充分推測されます。

(A) 放射式コース



(B) 順次式コース

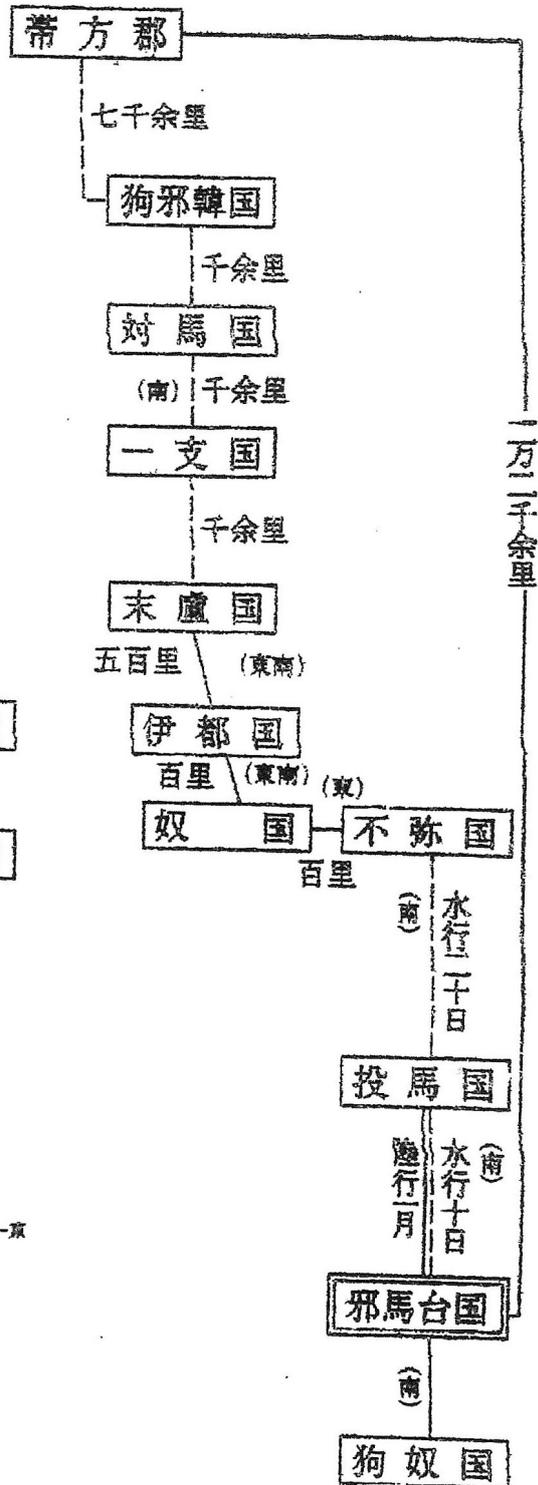
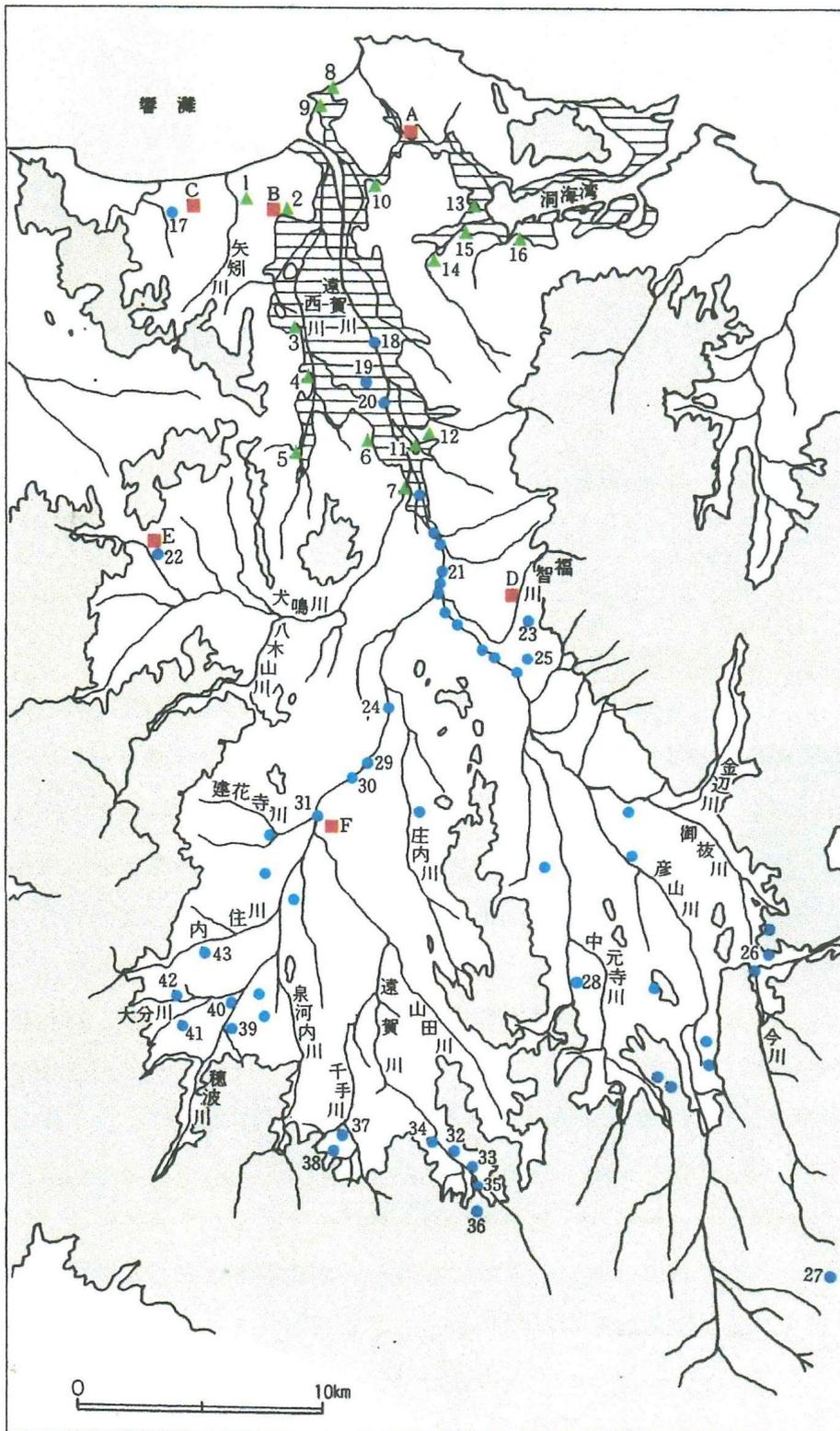


図4 伊都国中心の放射式コースと順次式コース

(岡本健一「邪馬台国論争」による)



■旧石器時代の遺跡

- A 椎木山
- B 尾崎・天神山
- C 黒山
- D 奥長谷池西
- E 汐井掛
- F 立岩

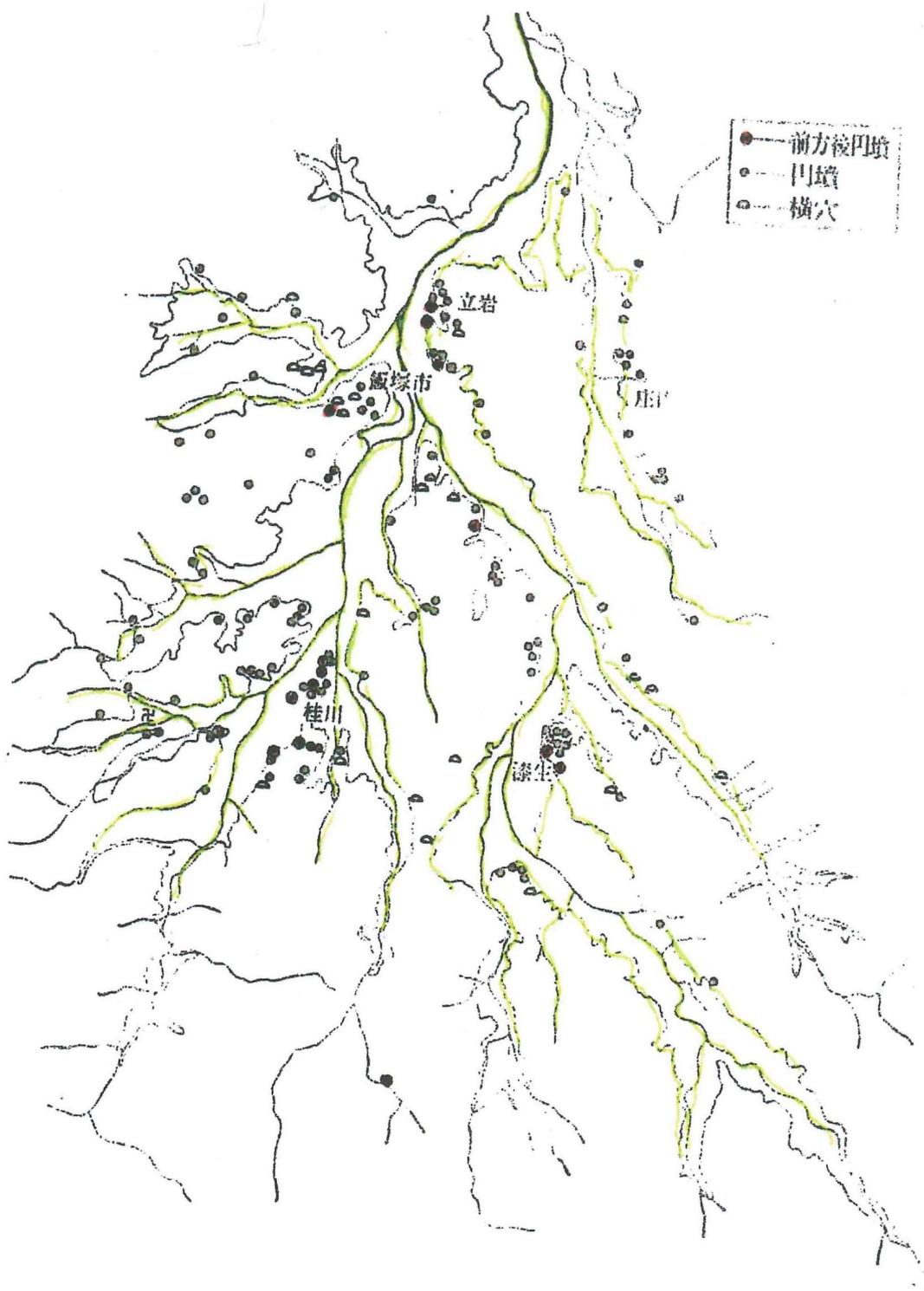
▲縄文時代の貝塚

- 1 榎坂貝塚
- 2 鬼津貝塚
- 3 虫生津貝塚
- 4 古月貝塚
- 5 新延貝塚
- 6 光田貝塚
- 7 天神橋貝塚
- 8 夏井ヶ浜貝塚
- 9 山鹿貝塚
- 10 三ツ頭貝塚
- 11 寿命貝塚
- 12 楠橋貝塚
- 13 柳原貝塚
- 14 永犬丸貝塚
- 15 陣ノ原貝塚
- 16 黒崎貝塚

●縄文時代の遺跡

- 17 元松原遺跡
- 18 垣生遺跡
- 19 宮田遺跡
- 20 中之江遺跡
- 21 日出橋遺跡
- 22 都地遺跡
- 23 釜床池端遺跡
- 24 竹下遺跡
- 25 上野遺跡
- 26 合田遺跡
- 27 ズイベガ原遺跡
- 28 冥加塚遺跡
- 29 目尾遺跡
- 30 鯨田遺跡
- 31 川島殿浦遺跡
- 32 榎町遺跡
- 33 勘高遺跡
- 34 椎木本村遺跡
- 35 藤右エ門畑遺跡
- 36 巻原遺跡
- 37 アミダ遺跡
- 38 大力遺跡
- 39 木下遺跡
- 40 北古賀遺跡
- 41 鳥バミ遺跡
- 42 中野池遺跡
- 43 春田遺跡

④ 遠賀川流域の旧石器時代・縄文時代遺跡分布図



嘉穂盆地の古墳分布図

六

遠賀川流域における縄文遺跡の分布は、ほとんど全域に普遍的に上流の山間部にも浸透を示しています。

03. 住み続けたいまち・住んでみたいまち～勝手に提案研究会 会長：六谷 拓也

学生が多く住んでいるだけのまちから「学生を当事者とする」取り組みに加え、「地域の方々が当事者となる」ような取り組みを通じて、いつかのまちを「住み続けたいまち・住んでみたいまち」にしていけるよう、語り、研究し、そして勝手に提案していきたい。

※建築士会飯塚地域会会員、近畿大学教員・学生及び市民が連携して活動しています。

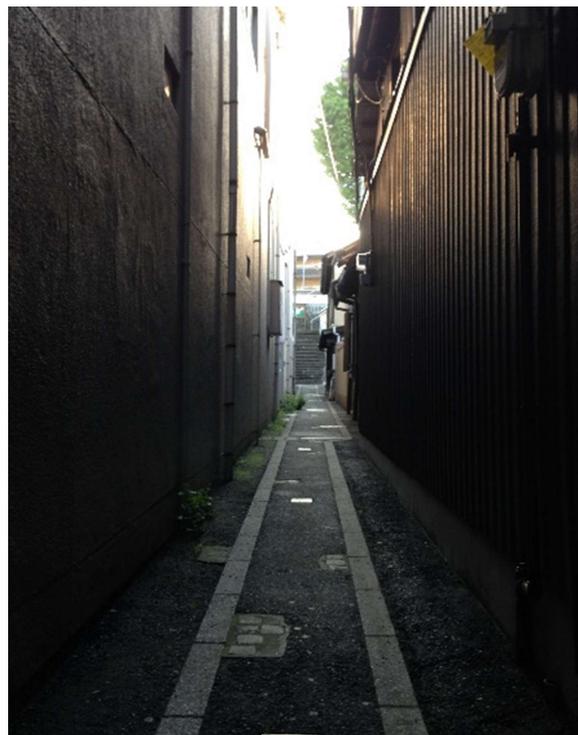
第 33 期は、昨年度に引き続き「飯塚つなごうプロジェクト」を進めていく予定でしたが、大学がリモート授業となり、学生と一緒に活動を行うことが困難となり、今期は実質的な活動ができませんでした。

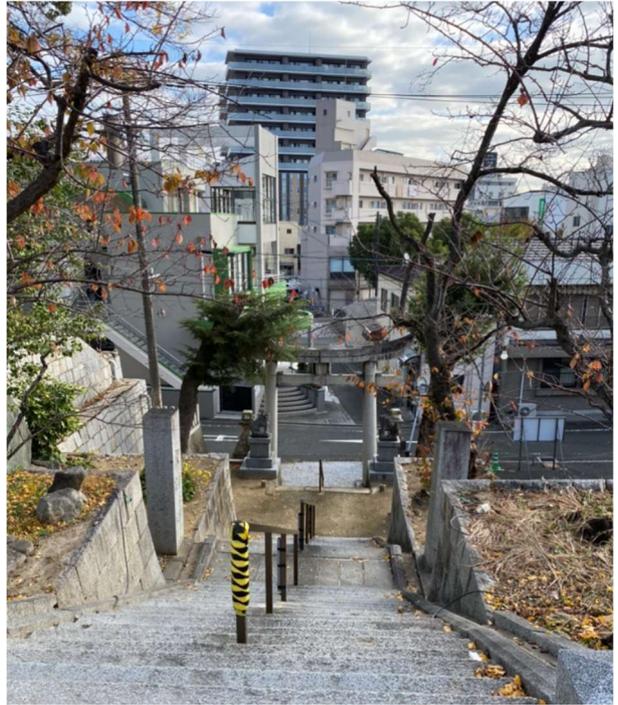
アフターコロナの状況を考えると、今までの常識やみんなの意識がまったく違うものへと変化していくことが実感として感じられます。また、飯塚市内でも菰田地区に「ゆめタウン」の進出が発表されるなど変化が起こっていくことが予想されます。

新しい活動の仕方を模索しながら、みんなに当事者となっていただき、みんなで飯塚のまちの将来を考えていけるようなキッカケづくりができることを目標としていきたいと考えています。

PHOTO：今年の飯塚市内の状況・・・コロナに加えて天候も荒れたりすることもありました。

変わらないものもありますが、変わっていくものもありコロナ禍でも変化しています。







飯塚本町商店街の新しい集いの場
「オソラホンマチ」



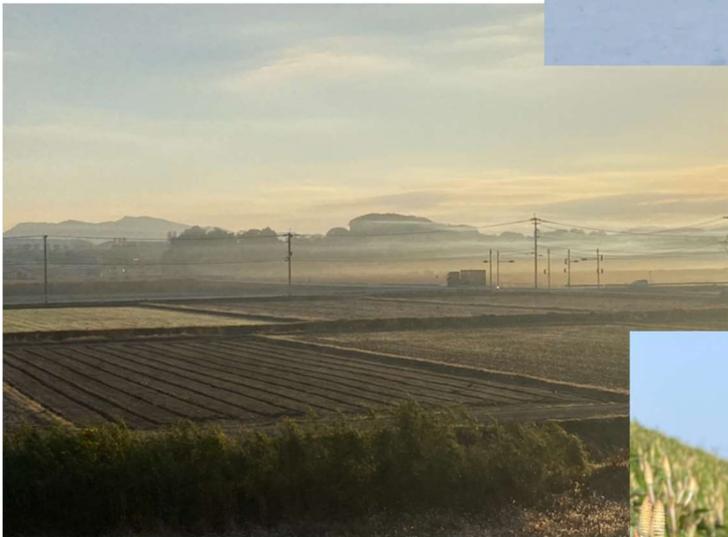
緑道公園に新しい風を吹き込んだ
「三角ビルヂング」

移転した飯塚消防本部





雪国か！というくらいの大雪も降りました
大きな台風も・・・



変わらない美しい風景

コロナ禍ですが、当然のように季節は進み
春がきています。



今後は、コロナ禍の中での新しいまちづくりを目指していきたい。

04.つかこうへいと筑豊研究会

会長：池田 静子

日本の演劇界の風雲児と呼ばれた劇作家「つかこうへい」は、筑豊の嘉麻市出身です。筑豊の人々に「つかこうへい氏の作品」（小説、演劇、映画）が身近に親しまれ、筑豊の若者たちの文化意識が向上し、心豊かな生活に結び付くよう、つか作品や筑豊の豊かな文化を学ぶ場となるよう活動をしていきたい。

つかこうへい氏の命日法要 「すかぶら忌」 の開催

2020.07.10

コロナウイルスのこの時期に、7月10日のつかこうへい氏の「すかぶら忌」を行うべきかと迷っていたのですが、善照寺の和尚さんと相談の上、少人数でお経をあげていただくことになりました。

つかこうへい氏の命日法要 「すかぶら忌」

日時：2020年7月10日（金） 11時～

場所：善照寺

会費：食事代（2,160円のお弁当代）

今年、会場でもある善照寺の和尚さんが『芳語に聴く 仏法を考えるヒント』を自費出版されました。和尚さんは、元山田高校で国語・古語の教師をされており、2～3年の時に担任の先生でもありました。今年、90歳になられます。

仏教徒として「人間らしく生きる」とはどういうことかと日々お仕えされ自問される中で、心に響く生き方、言葉に共感されたことを書き留められたもので、読んでみると和尚さんの生きる姿勢がとても伝わってきます。

現在、世界はグローバル化し経済優先で格差、差別が拡大するなかで、今回のコロナウイルス騒ぎです。私たちの生活も一変し、世界中が恐怖にさらされ、誰もが生活を脅かされる時代となっています。コロナウイルスによる巣ごもり生活の中で、この本を読んでいると、なぜか救われるようで心が落ち着く思いになりました。

そこで今回は、和尚さんを囲んで、コロナウイルスに負けない、人間としていかに生きるかを一緒に考えたいと思います。

※「すかぶら忌」とは？

つかこうへい氏 7 回忌に同窓生やファンが集まり「しのぶ会」を開催しました。その後、7 月の命日に集い、つかさんの功績を語り合い偲んでまいりました。「すかぶら」とは筑豊の方言です。過酷な炭鉱労働者の中で噂話や下ネタなどで人を笑わせ気持ちを和ませるが、働くことを好かず、ぶらぶらしているので「すかぶら」といわれたらしい。つかさんもこの「すかぶら」についてよく語り、周りを笑わせていたという話も残っています。

2010 年 7 月 10 日に 61 歳という若さで亡くなったつかこうへい氏の死は、演劇界に衝撃が走りました。生前、つかこうへい氏は「日本の芝居を変えた男」「つか以前つか以後」などといわれ、主に 1970 年代初めに彗星の如く演劇の世界に現れて、70 年代から 80 年代にかけて演劇界の寵児として話題となった人物です。

そのつかこうへい氏は、嘉穂郡嘉穂町（現嘉麻市嘉穂町）の出身です。

2016 年 7 月 10 日の 7 回忌に、小・中・高校の同級生やつか氏と縁のあった方々と、「つかこうへい氏を偲ぶ会」を善照寺（嘉麻市）にて開催。その後、毎年 7 月に偲ぶ会「すかぶら忌」を開催してきました。

来季は、つかこうへい氏の映画作品を上映する予定となっています。

映画「蒲田行進曲」の上映

日時：2021 年 4 月 24 日（土） 14 時～

場所：王塚古墳館（桂川町寿命 376 TEL：0948-65-2900）

会費：無料

定員：15 名

主催：つかこうへいと筑豊研究会

05.情報発信/データデザイン研究会

会長：吉田 直樹

1).筑豊ゼミ・筑豊地域づくりセンターのウェブサイトのリニューアルと保守・管理：

より見やすく、情報を容易に入手できるようにリニューアルを進めるとともに、更新・管理作業を行い、Webサイトの充実化を図る。

2).「つなぐカフェ@飯塚」を活動拠点の一つとして、飯塚市や企業、市民との連携を図りながら活動する。

※近畿大学産業理工学部の学生（学生会員）が中心となっている研究会

令和2年度の活動報告

・本年度は新型コロナウイルスの影響のため本格的な活動はできず、今後に向けた活動方針を選択する時期となりました。

具体的には3つあるHPの整理をすることが挙げられました。最近ではHPに関する話があがっているのでそれと共同で進めていけたらなと思っております。

筑豊地域づくりセミナー報告

今期は、筑豊地域づくりセミナー（地域社会の振興発展に関する情報の収集・提供事業）を以下のとおり開催しています。

第 24 回 筑豊地域づくりセミナー

2020.10.13 (火) 18:30～19:30 飯塚市役所 2階 多目的ホール

テーマ：「県政の場から見た筑豊における地域おこしの課題と展望」

講師：吉村 敏男 氏 (元県議会議員)

第 25 回 筑豊地域づくりセミナー

2020.11.16 (月) 19:00～ 飯塚市役所 2階 多目的ホール

テーマ：「地震時に、何故？ 鉄筋コンクリート造建物は被害を受けたのか」

講師：小野 正行 氏

(NPO 法人 住学協同機構筑豊地域づくりセンター理事長／近畿大学名誉教授(工博))

第 26 回 筑豊地域づくりセミナー

2021.03.19 (金) 18:30～19:30 飯塚市役所 2階 多目的ホール

テーマ：「ことば・うた・生きる力 -伝えたい気持ちをメロディにのせて」

～飯塚市文化会館を軸として地域活動を通じて～

講師：大塚 省子 氏 (声楽家／飯塚市出身)

内容：声の専門家の立場と教育に取り組む立場の両面から、「飯塚子どものためのドラマスクール」「カキケコモンの出前講座」「小学校で音楽授業」「乳幼児対象の遊び歌、わらべうた」などの実践を例に、教育と声、歌の関係が生きる力に与える影響について、皆さんとご一緒に考えたいと思います。

第33期筑豊ゼミ 修了式次第

日 時： 2021年03月18日(木) 19:00～

場 所： 飯塚市市民交流プラザ（つなぐカフェ@飯塚）

-
1. 開式のことば 筑豊ゼミ 運営委員長 六谷 拓也
 2. 祝辞・挨拶 NPO 法人住学協働機構筑豊地域づくりセンター
理事長 小野 正行
 3. 筑豊ゼミ研究会 紹介・第33期活動報告
 - ・ 市民遺産研究会
 - ・ 古代のロマンに酔う研究会
 - ・ 住み続けたいまち・住んでみたいまち～勝手に提案研究会
 - ・ つかこうへいと筑豊研究会
 - ・ 情報発信/データデザイン研究会
 4. 閉式のことば 筑豊ゼミ 事務局長 岩永 潔

以上

第33期筑豊ゼミ決算報告

第33期 筑豊ゼミ 決算報告 (2020.04.01~2021.03.31)

会費の収支				
摘要	収入	支出	残高	備考
正会員会費 (市民遺産研究会 5,000円×5名)	25,000	20,000		活動費 4,000円 × 5名
正会員会費 (つかこうへいと筑豊研究会 5,000円×1名)	5,000	0		
正会員会費 (情報発信/データデザイン研究会 5,000円×1名)	5,000	0		
団体会員会費 (福岡県建築士会飯塚地域会)	10,000	0		
団体会員会費 (遠賀川上流古代祭り実行委員会)	10,000	0		
事務局経費	0	7,124		
【会費計】	55,000	27,124		
活動費の収支				
摘要	収入	支出	残高	備考
市民遺産研究会	20,000	18,190	1,810	残高は事務局に返納済み
古代のロマンに酔う研究会	0	0	0	
勝手に提案研究会	0	0	0	
つかこうへいと筑豊研究会	0	0	0	
情報提供/データデザイン研究会 (PDD研)	0	0	0	
事務局経費	7,124	7,124	0	
【活動費計】	27,124	25,314	1,810	
活動費支出明細				
情報関連費				
市民遺産研究会		0		
古代のロマンに酔う研究会		0		
勝手に提案研究会		0		
つかこうへいと筑豊研究会		0		
情報提供/データデザイン研究会 (PDD研)		0		
事務局経費		7,124		ホームページ運営費
研修費				
市民遺産研究会		1,230		現況調査時ガソリン代
古代のロマンに酔う研究会		0		
勝手に提案研究会		0		
つかこうへいと筑豊研究会		0		
情報提供/データデザイン研究会 (PDD研)		0		
事務局経費		0		
消耗品費				
市民遺産研究会		4,960		複合機インク代
古代のロマンに酔う研究会		0		
勝手に提案研究会		0		
つかこうへいと筑豊研究会		0		
情報提供/データデザイン研究会 (PDD研)		0		
事務局経費		0		
図書費				
市民遺産研究会		12,000		書籍代
古代のロマンに酔う研究会		0		
勝手に提案研究会		0		
つかこうへいと筑豊研究会		0		
情報提供/データデザイン研究会 (PDD研)		0		
事務局経費		0		
雑費				
市民遺産研究会		0		
古代のロマンに酔う研究会		0		
勝手に提案研究会		0		
つかこうへいと筑豊研究会		0		
情報提供/データデザイン研究会 (PDD研)		0		
事務局経費		0		
【活動費支出計】		25,314		

発行：NPO 法人

住学協同機構筑豊地域づくりセンター

第 33 期筑豊ゼミ

<http://www.chikuzemi.com/>

編集：第 33 期筑豊ゼミ運営委員会

esutema69@gmail.com（運営委員長）六谷 拓也

kiiboo914@gmail.com（事務局長）岩永 潔